

中南米

スタートアップとエコシステム構築

ジェトロ海外調査部主幹 竹下 幸治郎

2010年以降、中南米諸国では資源分野以外の経済成長の柱をイノベーションに求めようとする動きが広がった。ベンチャーキャピタルによる投資額は、11年の1億4,300万ドルが15年には4.15倍の5億9,400万ドルとなった注1。中でもICT（情報通信技術）分野は、15年におけるベンチャーキャピタル投資の84%を占めるなど、投資家の注目を集めてきた。ICTの世界における中南米主要国のポジションおよびスタートアップの事例、“エコシステム”構築の状況を紹介する。

SNS 使用時間で世界2、3位の国も

端末機能向上とクラウドサービスの普及により、ICTの活用範囲は世界中で広がっている。変革の波に乗り遅れまいと、中南米でも国主導での通信インフラ整備や大企業による通信・インターネット事業が展開されてきた。ただし、国際電気通信連合（ITU）が2016年11月に発表した報告書によれば、ICT開発指数（IDI）注2で見た中南米諸国の16年時点の順位はさほど高くない。調査対象国175カ国中、総合順位で上位3分の1（58位以内）に入っているのは、ウルグアイ、アルゼンチン、チリ、コスタリカの4カ国のみ

である。ネットの普及状況やブロードバンドの契約割合などでは、世界水準より特段高いわけではないが、一部モバイルブロードバンドについてはコスタリカやブラジルの普及率は世界的にも高い方に入る（表1および表2参照）。

なお、ネット使用、特にSNSの活用状況には特徴がある。民間のソーシャルネットワークに関する調査を行っているWe Are Socialの年報「Digital in 2016」によると、SNSに費やす1日当たりの時間（1人当たり平均）はブラジルが3.3時間でフィリピンに次いで世界第2位。そしてメキシコとアルゼンチンが共に3.2時間で第3位だった。フェイスブックのアクティブユーザー数の国別ランキングでも、ブラジルとメキシコは常にトップ10入りしている。滞留時間が長くなりがちなためか、SNS利用時はネット接続時間も長くなる。ネットインフラの質が特段良いわけでもない中で長時間のネット接続が特徴的だ。

また生活面でのリスク回避のため、特定のネットサービスの利用率が急増するケースも見られる。代表的なのがフィンテック（ICTを使った新たな金融サービス）である。振り込みや支払いのために現金を持ち歩くことは、犯罪が多い中南米ではリスクが高い。そうしたリス

ク回避のためインターネットバンキングが急速に拡大している。例えばブラジルの銀行協会連合（FEBRABAN）の調べでは、15年時点で金融取引全体の54%がネット経由である。また11年から15年にかけてモバイルバ

表1 ICT 開発指数ランキング

	ICT 開発指数 (2016年)	2016年 順位	2015年 順位
(韓国)	8.84	1	1
(日本)	8.37	10	11
(米国)	8.17	15	15
ウルグアイ	6.79	47	49
アルゼンチン	6.52	55	56
チリ	6.35	56	57
コスタリカ	6.30	57	59
ブラジル	5.99	63	65
ベネズエラ	5.27	79	75
コロンビア	5.16	83	81
メキシコ	4.87	92	96
パナマ	4.87	93	91
ペルー	4.42	101	100
キューバ	2.73	135	133

出所：表1、表2ともITU “Measuring the Information Society Report 2016”

表2 2015年時点の中南米ネット使用状況

	インターネット 個人利用割合 (%)	世界での 順位	100人当たりの 固定ブロードバ ンド加入者数	世界での 順位	100人当たりの モバイルブロード バンド加入者数	世界での 順位
アルゼンチン	69.4	54	16.1	61	67.3	47
ウルグアイ	64.6※1	65	26.3	39	77.7	31
チリ	64.3	66	15.2	66	57.6	63
ベネズエラ	61.9	69	8.2	86	43	83
コスタリカ	59.8※2	70	11.2	78	95.5	17
ブラジル	59.1	71	12.2	73	88.6	23
メキシコ	57.4※1	74	11.6	76	50.4	79
コロンビア	55.9※2	78	11.2	77	41	91
パナマ	51.2※3	89	7.9	89	32.7	113
ペルー	40.9※1	109	6.4	95	36.7	105
キューバ	31.1	116	0.1	157	0	172

注：順位は世界175カ国中
 ※1：調査年齢6歳以上
 ※2：調査年齢5歳以上
 ※3：調査年齢10歳以上

ランキングによる取引件数は16倍に増加し、全取引に占めるシェアは15年には全体の21%に達した。

優良スタートアップの出現

経済協力開発機構（OECD）によると、ブラジルを筆頭に中南米諸国には多くのスタートアップが生まれている（表3）。また、ラテンアメリカ・プライベートエクイティ&ベンチャーキャピタル協会の資料によれば、15年末までに既にエグジット段階（株式公開、株式譲渡、経営陣による会社の買収などを通じた投資資金回収の段階）にあるスタートアップは60社ある。また、15年にベンチャーキャピタル（VC）投資分野のほとんどを占めたICT分野では、(1)フィンテック、(2)eコマース、(3)輸送——の順に企業数が多い。

これら分野の中で15年に多くの出資を集めた案件を見ると、まずフィンテックの事例では、シリコンバレーの著名VCであるセコイアキャピタルなどの大手VCから出資を受けたヌーバンク（Nubank）がある。同社は、クレジットカードと家計管理アプリを顧客に提供する企業。eコマース分野では、アルゼンチンで

家庭用品のネット販売を手掛けるアベニダ！

（Avenida!）が3,000万ドルの出資を受けた。輸送分野では、300以上の都市で配車アプリを提供するブラジルの99Taxiが代表的だ。15年には米国のクアルコムベンチャーズをはじめとする米国のVCから出資を受けていたが、17年1月には中国の配車アプリ大手の滴滴出行（ディディ・チューシン）も出資を

発表し、注目を集めた。このように中南米のスタートアップに対するシリコンバレーのVCや中国など外国企業の関心も年々高まっている。

エコシステム構築を進める政府

OECDによると、メキシコ、パナマ、コロンビア、

表4 2016年時点におけるチリ、メキシコのスタートアップ育成のポリシーミックス（○有り ×無し）

カテゴリー	スタートアップをサポートする企業や機関の存在	チリ	メキシコ
資金支援	シードキャピタル	○	○
	立ち上げ直後の企業向け投資ファンド	○	○
	クラウドファンディング	○	○
	不特定多数からネット経由などで出資を募る	○	○
	エンジェル投資 創業間もない企業に出資する個人投資家	×	○
統合サポート	ベンチャーキャピタル	○	○
	コンテスト、褒賞	○	○
統合サポート	官民合同プログラム	○	○
ビジネストレーニングなど	インキュベーター 起業支援を行う団体	○	○
	アクセラレーター	○	○
	起業済みの有望企業の事業拡大支援	○	○
	経営アドバイス（メンタリング）ネットワーク	○	○
	技術移転、大学からのスピニアウト	○	○
法的枠組み	ビジネス、ファイナンストレーニング	○	○
	税制インセンティブ	○	○
	スタートアップのための特別ビザ	○	×

出所：経済協力開発機構（OECD）

ペルー、ブラジル、チリ、ウルグアイ、アルゼンチンには10年以降、スタートアップ支援策が導入された。スタートアップが生まれてからエグジット段階に至るまでには一般的に、①シードステージ（起業前の研究、製品開発段階）、②アーリーステージ（起業直後の段階）、③ミドルステージ（事業が軌道に乗る段階）、④レイターステージ（成長の最終段階）があり、必要な支援は各段階によって異なる。支援内容には、PRの場作りや経営に関する投資家へのアドバイス、補助金や人材育成支援、外国企業誘致のための特殊なビザの設定などがある。つまり、さまざまな省庁にまたがる法律を有機的につなぐ枠組みが必要となるわけだ。

この点、中南米で支援ツールが多い国として、OECDはチリやメキシコを例に挙げている。両国の主な施策やスタートアップを取り巻く“エコシステム”の形成状況は表4の通り。

中南米主要国では地域間格差の是正が経済政策の課題となっていることが多い。ICT分野の起業支援による新産業の育成には、そうした地域間格差是正効果も期待されている。メキシコやコロンビアにおいて首都以外の都市で創業したスタートアップが多い（表3）のは、そうしたエコシステム構築を試みる各国政府の施策も背景にある。

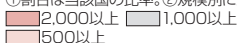
JS

注1：ラテンアメリカ・プライベートエクイティ&ベンチャーキャピタル協会「LATIN AMERICA VENTURE CAPITAL FIVE-YEAR TRENDS」

注2：電話、インターネットの普及率や通信速度などの通信インフラの整備状況に加え、パソコンの保有台数やブロードバンドの契約者数など当該国民のICT使用の状況、さらに正規教育年数や高等教育機関の就学率などを加味して算出した指数。

表3 中南米のスタートアップの状況

国	都市	割合(%)
ブラジル	サンパウロ	61
	リオデジャネイロ	12
	ベリオリゾンテ	10
	その他	17
メキシコ	メキシコ市	32
	モンテレイ	8
	グアダハラ	10
	その他	50
アルゼンチン	ブエノスアイレス	77
	その他	23
チリ	サンティアゴ	80
	その他	20
コロンビア	ボゴタ	48
	メデジン	23
	その他	29
ペルー	リマ	77
	その他	23

注：①割合は当該国の比率。②規模別にアミ掛け

 資料：ITU “Measuring the Information Society Report 2016” を基に作成